

日本における漢文の影響—故事成語を通じて

国語教育専修・太田亨

1、授業の概観

大学院・学校教育専攻の授業「漢文教材の分析と鑑賞 I」において、教育現場から来られた1名、学部から進学した1名、特別聴講生2名の学生が受講した。

2名が小学校教員及び希望者であり、2名が中国から来た留学生であるため、本授業の目的は、中国が日本に及ぼした影響を理解することによって、小学校で学ぶ漢文の必要性を理解することに設定した。

具体的に中国の歴史を学びながら、その歴史の中で語られた故事が日本でどれほど影響を及ぼしているかを理解した。資料については、日本人がその故事を学ぶに当たっては訓読を用いていたことを実感するため、『史記』や『十八史略』に書かれた文章を訓読漢文で示した物を用意した。

まずは、中国の歴史の概略と日本と中国の関係についての説明をした。文字を持たない日本人がいつから文字を持つようになり、現代の表記法を獲得するに至ったのか、その際に漢文はどのような役割を果たしていたのかを解説した。その後、『史記』や『十八史略』の中で語られている中国の古代の話を取りあげ、日本への影響について解説した。言語の面に着目し、故事成語を取り扱うことが多かったが、日本に影響を与えた中国のものの方の見方や考え方が表れている故事も扱った。

取りあげた故事成語は、「指南」「鼓腹撃壤」「酒池肉林」「覆水盆に返らず」「太公望」「管鮑の交わり」「宋襄の仁」「鳴かず飛ばず」「鼎の軽重を問う」等である。また「伯夷と叔齊」や「三本足のカラス」等の故事も取り上げた。それぞれの故事の歴史的背景をおさえた上で、訓読に注意しながら読み、内容理解を深めた。内容を理解した上で、日本への影響について、主として語学の面から解説した。

2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、⑤項目のアンケートを行った。以下、その項目と結果である。回答

者は2名である。アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。

①、授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だった：2名）

②、授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができた：2名）

③、教員の説明はよく分かりましたか。（よく分かった：2名）

④、授業配付資料・ビデオ等の使い方は効果的でしたか。（非常に効果的だった：2名）

⑤、故事成語について、あなたの感想を書いて下さい。（作品の内容自体の感想、これまでの授業での経験を踏まえた上での感想、日本における受容についての感想、何でも構いません。）*一部を抜粋

・現代の日本において使われている「指南」や「太公望」、「鳴かず飛ばず」などの言葉が、故事成語であり、またその他にも「三本足のカラス」の話が日本サッカー協会のエンブレムなどに影響しているなど、非常に多くの驚きがある授業だった。漢文を学校などで学ぶ意義が分からないという子どもにとって、このように中国古典と現代日本が繋がっているということは、関心を持つきっかけになるだろう。実際に教壇に立つ指導者はそういった知識を持つことでより指導に厚みが出て、説得力のある指導ができるのではないだろうか。将来、漢文を教える機会があるかどうかは分からないが、子どもに何かを教える側に立つ人間として、日本語に対してなど、言語感覚を豊かにしていきたいと思った。

・故事成語の由来について今まで丁寧に学ぶことがなかったので、学びの機会を与えていただき、大変ありがたく思いました。どの故事成語の話からも中国の文化や生活を知ることができ、言葉を学びながら世界が広がっていくように感じました。また年表に沿って故事を確かめることにより、時間の広がりを感じることもできました。今でもよく使われる故事成語ですが、「鳴かず飛ばず」のように用法のずれがあるものがあることが分かりました。テストのために学ぶことと、おもしろさを知りながら学ぶことでは、学びの質が違います。小学校ではたくさんの故事成語を学ぶわけで

はありませんが、だからこそ丁寧に由来を伝えていきたいと思いました。史記や十八史略がとても身近に感じられるようになったのは、その時代時代の人の様子や心の動きを知ることができたためだと思います。楽しく学ぶことができました。

3、アンケート結果について

①～④の結果より、教員の対応や授業の進行については、あまり不満は見られなかったと言える。2名の授業に取り組む姿勢であるが、ともに積極的に授業の内容理解に取り組んでいる姿勢が見られた。

今回、院生の授業では、中国と関わりの深い故事成語を扱った。中国に関心を持つに際して、有効的な手段であると感じた。

我々が普段生活している中で、中国に影響を受けていることに意識することはほとんど無い。有形のものもあれば無形のものもある。普段話す言葉やものの考え方の中に中国から影響を受けたものがあることに気付いた時、教員自身も漢文の面白さ・重要性を認識すると思われる。もとをただせば、漢字自体中国より伝わったものである。言語と文字において、日本人がどれほど苦心して日本化したのか知らない教員は大勢いる。今回の授業でその一端に気付いてくれたことが窺える。学生には、教員になった（戻った）時、漢文に興味を持って指導してほしい。

まとめ

今回の授業で学生が新たな発見を多くし、いささかなりとも漢文に興味を持ったことがわかった。我々は日本語に慣れすぎてしまっているため、自国の言葉の特徴に気付いていない。日本人の言葉・ものの考え方は複雑である。その根底には中国の古典（漢文）が存する。学生はこの経験を踏まえて、もっと自国の言葉やものの見方・考え方に目を向けてほしい。

小学校においても漢文の指導が行われるようになった。小学校では、漢文という存在があることに気づき、漢文に興味を持たせることが重要である。そのためには教員自身が漢文に興味を持たなければいけない。学生は引き続き漢文に関することに注意を払ってもらいたい。

わずか15回の授業では、扱った故事の数は少ない。今後は中国の歴史を通じて、もっと多くの故事を取り扱えるようにしたいと考えている。